



### ◆生育状況について

果樹の中でも、ぶどうの生育は進んでいる。今後も気温が高く推移する予報が出ており前年の生育より早まると予想しているため、園地の状況を確認して管理作業など遅れないよう注意する。

### ◆当面する重点作業

1. 強風で新梢が欠損した箇所は誘引をし直し空間を埋める。
2. 品種ごと満開までに段切りが終了するよう、適期に作業をすすめる。
3. 薬剤散布を適期に十分な散布量で実施する。
4. 降雨が続く場合は、散布間隔を10日以上空けないように晴れ間を見ながら散布する。  
また、小雨の場合は雨の中でも散布を行い、病気の発生を防ぐ。
5. 天候不順や樹勢が不安定で、キャップの飛びが悪い園は梅雨による灰色かび病発生やサビ果となるので、薄手袋をはめるなどして幼果房面を軽くこすり花カスを取り除く。
6. ナガノパープルは、裂果防止のため、適正な房管理をする。

### ◆定期的なかん水について（4月上旬以降まとまった降雨が無い）

1. 晴天が7日続いたら20～30ミリ程度のかん水を行う。（砂を含む土は4日）  
※10aに1ミリのかん水をするには、水1,000ℓが必要。樹冠下に行く。
2. かん水後のマルチは水分保持に有効である。稲わらなどのマルチを敷く。
3. 種あり巨峰の場合は、開花前から開花中でのかん水は控える。
4. 種なし品種の場合は、「シャインマスカット」以外の品種は、開花前～第1回ジベレリン処理の間は、定期的に灌水し、土壤水分を一定に保つ。  
「シャインマスカット」はたっぷりな灌水を抑える。  
第1回ジベレリン処理時に乾燥している場合は、処理効果をあげるため、処理後にかん水を行う。（湿度をあげる）。

### ◆第5回薬剤散布（開花直前）について

1. 散布時期：開花直前～咲き始め 散布日 月 日
2. 調合量：水100ℓ当り ※混用順に記載。 ※よく攪拌して使用すること

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10ml	—	—
アーデントフロアブル	50ml	ヨコバイ類・スリップス類	前日
オーソサイド水和剤	125g	灰色かび病・べと病・晩腐病・白腐病	30日前
(Ⓜ)パダンSG水溶剤	66g	(スカシバ類)	21日前

3. 散布量：10a当り＝350ℓ以上
4. 散布上の留意事項
  - ①灰色かび病・べと病・晩腐病・白腐病とスリップスの重要な防除。房切の傷を治療する効果もあるので穂軸の内部までタッピー散布する。
  - ③うどんこ病、灰色カビ病の発生が心配されえる園はオンリーワンフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml）を加用散布する。

- ③アーデントフロアブルに代えて㊦イカツチWDG1,500倍(水1000当り66g)を使用してもよい。
- ④クビアカスカシバの発生がある地域は、㊦パダンSG水溶剤1,500倍(水1000当り66g)を加用散布し地域全体で対策を行う。散布の際は手散布で主幹・主枝にたっぷり散布する。なお、大粒種ぶどうのみの登録のため、登録の無いデラウェア等の小粒種にかからないよう十分に注意する。

### ◆第6回(落花直後)の薬剤散布について

1. 散布時期：落花直後(房作りした房が80%程度咲き終わった時を落花とみる。)前回散布から12日後を目安に実施する。  
品種によって生育が異なるので、生育に合わせて実施する。

2. 調合量：水1000当り ※混用順に記載。 散布日 月 日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
パレード15フロアブル	33ml	黒とう病・灰色カビ病	7日前
ゾーベックエニベル顆粒水和剤	133g	べと病・晩腐病	45日前
㊦パダンSG水溶剤	66g	スカシバ類	21日前
㊦アドマイヤー顆粒水和剤	10g	スリップス類	21日前

3. 散布量：10a当たり⇒350ℓ以上

#### 4. 留意事項

- ①べと病が発生した園では棚上散布も実施し、防除間隔を開けないこと。
- ②果房に被害を与える病害虫の重要な初期防除となるので、花冠(花カス)離れの悪い園は特に丁寧な散布を行う。
- ③ゾーベックエニベル顆粒水和剤は汚れやすいので、散布が遅れないようにする。
- ④パレード15フロアブルに代えて㊦カナメフロアブル4,000倍(水1000当り25ml)でもよい。
- ⑤黒とう病発生がある場合はパレード15フロアブル2,000倍(水1000当り50ml)で使用する。
- ⑥パダンSG水溶剤は、根本・主幹・主枝にたっぷりかけるようにする。なお、デラウェア等小粒種は登録無しのため、農薬散布には十分注意する。※5回目散布上注意④参照

## ◆種なしぶどうアグレプト液剤散布時期及び方法について

完全に種を抜くため、下記によりアグレプト液剤を品種ごとに適期に必ず散布する。

自園の生育に合わせて散布を行う。

### 1. 散布時期：満開予定日の14日前～開花7日前まで 年1回使用

※農薬登録の表記とは異なります。開花初期に近づくとつれ、種混入の可能性が高まりますので、登録範囲で早めの散布としています。

種なし巨峰の散布目安：5月15日（水）～19日（日）頃

### 2. 調合量：水100ℓ当り 散布日 月 日

**アグレプト液剤・・・100ml**

### 3. 使用品種：「種なし」で出荷するすべての品種。

4. 散布方法 I 園地全部が「種なし」ブドウで周りに「種あり巨峰」が無い場合は、動力噴霧器を使用して花房全体に掛かるようたっぷり散布を行う。薬液が掛からない部分は種が抜けません。

II 周りに「種あり巨峰」がある場合は、らくらくカップでの花房浸漬でもよい。

### 5. 散布量：10a当り⇒200ℓ（SSで散布する場合は250ℓ以上）

### 6. 散布上の留意事項

①風の無い日を選んで散布してください。

②わずかでも飛散すると、かかったところは種無しになります。周囲の「種あり巨峰」や他品目へは、絶対にかからないよう十分注意する。

③溶かすのは当日使用分のみとし作り置きしない。日陰にて保管する。

④高温時の使用は避ける。 ⑤品種ごとに適期に散布する。

⑥各品種散布時期の範囲内で早目の方が効果は高い。

## ◆種なしぶどう開花前摘心（着粒安定、果粒肥大効果）について

着粒安定、果粒肥大のための必須作業。

### 1. 時期：開花3日前～満開期（房切り時）

2. 100cm以上の新梢は、先端部分を軽く摘む（図1）。

80cm程度しか伸びていない新梢も着房させる場合は摘心する。

3. ナガノパープルは、園地内で開花を確認し実施する（他の品種の摘心時期は多少前後してもよい）。

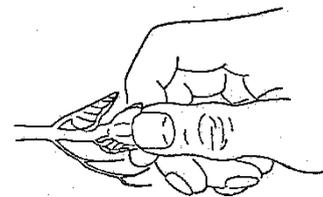


図1 摘心の方法  
（未展葉部分を摘み取る）

## ◆種なしぶどう開花前の花穂の整理について

1. 花穂先端の形状が確認でき次第、1新梢1花穂としてもよい。（ただし、作業に慣れていない場合は房切り時等に折れやすいので、2回目のジベレリン処理前までに1房とする。）

2. 形状がすらっとしている房で、下向き～横向きの花穂を残す（第1、第2花穂どちらでもよい）。

3. 生育の遅れている新梢や弱い新梢は早めに1花穂とするか空枝にする。

4. 着粒が心配される極端に強い新梢は2花穂残しておき、2回目のジベレリン処理前に1房に整理する。

## ◆種なしぶどう 房切り（花穂整形）について

1. 時期：花穂が伸びきり、房の上部が咲き始めた頃～満開期前（残した花穂が80%咲いた時）。
2. 花穂長の目安は

品種	開花始	満開時
無核巨峰、ナガノパープル	2.5 cm	3 cm
シャインマスカット、クイーンルージュ®	3 cm	3.5 cm
ピオーネ、クイーンニーナ	2.5 cm	3 cm

→穂軸が太く先端がすらっとまっすぐな花穂を残す。

→先端が二股のものは、他に良い房がなければ、二股の片方を落として整形しても良い。

→扁平で带状の花穂、先端がわん曲している花穂は落とすか、上段支梗（上から3～4段目）を使う。

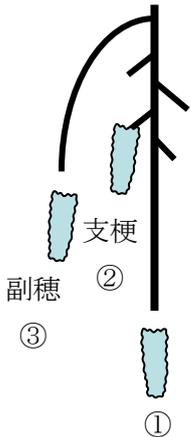


図2 穂軸は折れやすい！

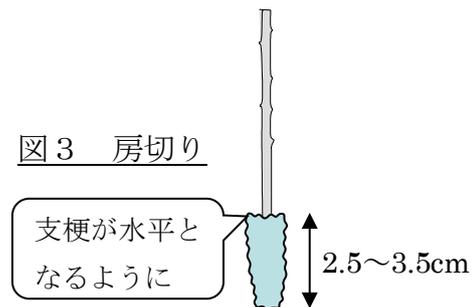
房切りの順序は、  
次のように危険分散する。  
まず、主穂先端部①を整形する。  
→成功したら、①を利用する。  
→①の整形時に穂軸を  
折ってしまった場合は  
②または③を整形する。  
(②は上から3～4段目)

注意点：副穂はできるだけ利用しない

①～③は開花期が異なる。

②、③は開花期が早い。

図3 房切り



※上段支梗を利用する場合

最上部の支梗を利用した場合、摘粒や袋掛け作業がやりにくいので、軸長が確保できれば、3～4段目の支梗を利用する。

## ◆種なしぶどう 1 回目ジベレリン処理について

1. 処理時期・・・満開時(果房の先端まで全ての花が咲いた時)から満開3日後まで  
但し、ナガノパープルは満開時から満開2日後
2. 処理方法・・・品種によって処理濃度が違うので注意
3. 種子の混入を防ぐため必ず処理時期は厳守してください。

品 種	処 理 濃 度	備 考
種無し巨峰	<u>ジベレリン25ppm+フルメット5ppm</u> 水2ℓに ジベレリン錠剤2錠(50mg) +フルメット1本(10ml)	1つの 房に対し 1回花房 浸漬処理
ピオーネ	<u>ジベレリン12.5ppm</u> 水2ℓに ジベレリン錠剤1錠(25mg)	
ナガノパープル シャインマスカット クイーンニーナ クイーンルージュ®	<u>ジベレリン25ppm</u> 水2ℓに ジベレリン錠剤2錠(50mg)	

※若木や結実が不安定な場合は、フルメット5ppm以内で加用する。

水2ℓにフルメット1本(10ml)で5ppm

ただし、着粒過多になりやすい場合は、2.5ppmで使用する。

### 4. 留意事項

- ①花冠(キャップ)が残っているとサビになりやすいので、処理前にしっかりこすり落とす。(特にナガノパープル)
- ②生育が揃わない場合は2回に分けて処理する。  
開花が遅く処理ができなかった房は、3回目の処理ではなく摘房し空枝とする
- ③処理が早いと小粒果(ショットベリー)の増加、穂軸の硬化・湾曲などが発生する。
- ④処理後は、棚や主枝を揺すり薬液を落とす。
- ⑤降雨による再処理は1回だけ認められている。心配な場合は技術員へ相談下さい。
- ⑥ジベ処理前日までにかん水を行う。また、高温時のジベ処理は、効果が劣るので涼しい早朝から行う。

## ◆種なしぶどうフラスター液剤の散布について

フラスター液剤の使用回数は年2回ですが、開花前と満開後の併用（2回）を使用した試験事例は少ないので注意（基本どちらか1回使用）

### 1. 種なしぶどうの房型向上（着粒安定）対策技術

1) 散布時期：新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで） 散布日 月 日

2) 使用内容

品種	倍率	使用量 水100ℓ当	散布量 水/10a当
シャインマスカット	1,000～1,200倍	100～83 ml	100～150ℓ
ナガノパープル	500～800倍	200～125 ml	150ℓ
以外の品種	500～800倍	200～125 ml	100～150ℓ

3) 留意事項

- ①着粒が良すぎて摘粒が苦勞する場合があります。
- ②散布すると軸の伸長を抑えるので、房こき時の軸長を通常より1cm～1.5cm長く残す。  
長くても5cm以内にする。
- ③樹勢が弱い場合は散布をしない。なお、不明な点、デラウェアについては果樹技術員にご相談下さい。
- ④特にナガノパープルは着粒が多くなりやすいので遅らせて散布する。

### 2. 種なしぶどうの新梢伸長抑制対策技術

散布日 月 日

1) 使用内容

品種	倍率	使用量 水100ℓ当	散布量 水/10a当	散布時期
シャインマスカット	500～1,000倍	200～100 ml	150～300ℓ	満開後10～20日 収穫60日前まで
ナガノパープル	500倍	200 ml	150 ℓ	
ピオーネ	500～1,000倍	200～100 ml	150～300 ℓ	

2) 留意事項 … 詳しくは講習会にてお知らせ致します。

## ◆種あり巨峰について

### 1. 種あり巨峰へのマルポロン(ホーサン)の葉面散布について

結実の安定を図るため、下記要領で散布する。

1) 散布時期：開花7日前と2日前の2回

散布日 月 日

2) 調合量：水1000当り

農薬名	使用量	備考
展着剤	10ml	—
生石灰	300g	薬害防止のため加用
マルポロン	300g	—

3) 散布量：10a当り⇒1500

4) 散布上の留意事項

①日中の高温時には散布しない。

②フィロキセラの被害樹などで樹勢の弱い樹は必ず散布する。

### 2. 種あり巨峰の房作り（花房の切り詰め）の実際について

1) 時期

手間さえあれば、1～2輪咲き始めた頃一気にやりたい

花穂が黄色くなった頃で、満開1週間前（咲き始めの2日前）頃が適期。

開花初めの展葉数は、強めの新梢13枚、中庸10枚、弱めの新梢7枚。

2) 方法

①早くから行う場合は、副穂の切除からスタートし、満開までに穂先をつまみ取る。

②房切り後の花房の長さの目安

房切りの時期	房切り後の花房の長さ
開花7日前頃	4～4.5cm
開花始め	5cm
満開時	5.5～6cm

枝の強弱	摘房の程度
強い枝（攻撃的なへびの頭部様の状態）	第1・第2の花穂を残す。 特に強い場合は、第3の花穂も残す。
中位の枝	念のため第1・第2花穂を残す。 結果的には第2花穂が良い。
中位の枝に次ぐ弱い枝	第2花穂のみとする。
さらに弱い枝	第1花穂のみとする。（第2花穂の無いときもある）
最も弱い枝	空枝とする。

③作業が遅れた場合は、上段の枝梗と穂先の切除を同時に実施する。

④短期間に効率よく実施するために、一通り誘引を行い、花穂を棚下に降しておく。

但し花穂が番線と接しないようにしておく。

⑤房先15～16段を目安に、支梗段が左右平衡（水平）になる部分まで落とすことがポイントになる。

⑥穂軸の太いしっかりした花穂を残すが、棚下に向けた物を優先する。

## ◆種あり巨峰の新梢かき取りと誘引について

1. 混み合っている部分を手直しし、徒長的で結実の悪い新梢をかき取り、結実良好なものをムラなく残して棚面の明るさを確保する。
2. 棚面の明るさは7月下旬に棚下から30%位、空が見える程度が良い。
3. 副梢は基部から着房位置までのものはかき取る。

## ◆「種あり巨峰」への追肥について

「種あり巨峰」は、チッソの減肥・フラスター散布・かん水停止等で徒長を抑え、着粒確保を図ってきたが、満開期以降は一転して樹勢の強化充実・果粒肥大の対応技術(チッソ施肥・かん水・新梢整理・摘房・摘粒)を講じることが秋落ちを防ぐために重要となる。

1. 施肥時期：開花期間中に施す。施用していない園では早急に施す。
2. 施肥量：有機専科・・・10a当り3袋  
ノルチッソ・・・10a当り1袋
3. 施用上の留意事項  
①吸収を早くさせ果粒肥大等の効果を上げる為、雨の無いときは、かん水と併せて行う。  
②樹勢に応じて施肥量を加減するが、樹勢の強い樹や葉色の濃い樹、新梢伸長の旺盛な若木やフリー一樹、無核巨峰には施用しない。

## ◆スチューベンの房作りについて

満開前(7日前～直前)の副穂と房尻の切除を行ない、実止まり決定後に第1・第2・第3の支梗を切除する。(小房は副穂のみ切除する)伸びの悪い新梢は、早めに花穂を取り空枝とする。

## ◆ロザリオビアンコの当面の管理について

房切り 開花始め～満開期。花穂の長さ7cm 目標とする房重550g

摘房 ジベレリン処理前に行う。550g房の場合は9～10房/坪

ジベ処理 満開15～20日後(果粒横径9～10mm前後)

ジベレリン25ppm 水1リットル + ジベレリン錠剤1錠

摘粒 満開15日後頃から 550g房：軸長9.5～10cm。16段程度。

※詳しい資料は各流通センターに用意してあります。

### 《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武(篠ノ井西部)：080-1202-0260/外谷(篠ノ井東部)：080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更)：090-7179-9866/伊藤(松代・情報担当)：080-2239-6816

松橋(川中島)：090-4816-6297/根津(更北)080-1203-8576

松澤(若穂)080-1191-5166/寺澤(全域・情報編集)：080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修)：090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)松坂(篠ノ井西部)080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/営農販売部(本所)：292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課：299-3311